

森 洋一日本医師会長選挙候補予定者記者会見

[2010/02/01 作成]

- ◇日 時 2010年2月1日(月)午後2時30分
◇会 場 ホテルグランヴィア京都5F「古今の間」
◇出席者 日本医師会長選挙候補予定者 森 洋 一 (京都府医師会長)
近畿医師会連合

委員長 酒 井 國 男 (大阪府医師会長) 様
副委員長 西 村 亮 一 (兵庫県医師会長) 様
常任理事 柏 井 洋 臣 (和歌山県医師会長) 様
監 事 淺 野 定 弘 (滋賀県医師会長) 様

京都府医師会

副 会 長 上 原 春 男
副 会 長 安 達 秀 樹
副 会 長 久 山 元

◇次 第

1. 開 会 司会：久山 元
2. 開会挨拶 京都府医師会副会長 上原春男
3. 出席者紹介
3. 日医会長選挙候補予定者挨拶 森 洋一
4. 近畿医師会連合委員長挨拶 大阪府医師会長 酒井國男 様
5. 質 疑
6. 閉会挨拶 京都府医師会副会長 安達秀樹

◇配付資料

1. 記者会見次第
2. 森 洋一日医会長選挙候補予定者プロフィール
3. 出馬表明
4. マニフェスト

出馬表明

平成 22 年 2 月 1 日

京都府医師会長 森 洋一

医療は厳しい状況におかれ崩壊寸前であります。地域医療の現場から、危機的状況に置かれている医師を始めとする医療関係者、国民の悲痛な叫びが聞こえています。

我々は、以前より国民の健康と生命を守る医療の専門家集団としての日本医師会の再生を行わなければ日本医師会に明日はないと訴えて参りました。そのためには、医療、医学の専門家集団として、多くの医師が心を一つにして結集できる、そのような医師会にしなければならぬと考えて参りました。

国民の声、国民の後押しこそ、真の医療制度改革の礎

医療崩壊の現実直面し、医療を受ける立場の国民も、現在の医療提供体制には多くの問題があると実感し始めています。医療崩壊を防ぎよりよい医療制度を再生していくためには必要な財源を投入し、勤務医の労働環境を改善し、医師や医療従事者を増加させなければならないという認識が、社会にも広がってきています。しかしながら、日本医師会が取り組んでいる、我が国の医療制度をよりよいものへとしていこうという活動が、残念ながら十分理解されず、自らの利益を主張する圧力団体とのイメージを持たれる方も少なからずおられるようです。最近の日医の広報活動により多少は日医へのイメージが改善されてきているとはいえ、国民の信頼を獲得するにはほど遠いといえるのではないのでしょうか。

医療崩壊の危機的状況下において、ようやく医療を始めとする社会保障の充実が社会の安心と安全に欠かすことができないものであるとの認識が国民に広がってきている中、国民の健康と生命を守る医療の専門家集団として真摯に国民の声に耳を傾け、医療関係者だけの議論から脱却し、医療、介護、福祉のあるべき姿を国民に訴えていかなければなりません。言うまでもなく、訴えるべきは国民に対してであります。国民の声が、国民の後押しがなければ真の医療制度改革はなしえないと考えます。

いつまでも政治活動にこだわっていて、本当に国民の医療が守れるのでしょうか。我々が耳を傾け、訴えるべきは患者さんであり、国民ではないのでしょうか。

政権に左右されない、心を一つにして結集できる日医を目指して

～医師会員一人ひとりの声に基づき、「医の理念」の構築を

医療の専門家集団である日本医師会が政権にこだわったり、政権に左右されてはいけません。いつまでも政治に寄りかかっている国民の信頼を得ることは出来ません。医師会は、自律機能を強化し、医の理念を構築し、その理念のもと、日本の医療の再生、世界に誇る日本の医療制度の再構築に向けて取り組んでいかなければならないと思います。そのためには、心を一つにして結集できる日本医師会となるように、全力を挙げて改革に取り組んでいかなければならない時がきていると思います。

政治主導の日医会長選挙であっては、国民はおろか多くの医師の支持さえ得ることは出来ません。圧力団体というイメージを払拭することも出来ません。日医の会長選挙は政治に左右されることなく、医療の専門家集団としてどうあるべきか議論されなければなりません。そのためには、現在日医会長選挙にご出馬のお二人では選択肢がないという会員、代議員の声が寄せられております。私は、第三の道、本来あるべき姿を求めておられる多くの会員の声を反映させ、医師会は、日本医師会は本当に変わろうとしているのだ、本当に変わって新たな方向性をもって進んでいこうとしているのだということを国民に訴える、そのような選択肢をお示しするために出馬を決意いたしました。いま本当に会長選挙で争っている場合なのか、権力闘争で分裂すれば日医は壊滅してしまう。そんな危惧も抱いております。しかし、座して待っていても崩壊の危機は回避できません。医師会活動は本来、人材を育成し、多くの国民に納得を得ながら、会員の了解を得ながら、継続性のある強い医師会を目指していかなければならないと考えます。私のめざすものは覇権主義や、ブロック間のパワーバランスではありません。勤務医のみならず、一般会員の多くは日医の代議員、都道府県医師会の会長の先生方にその声を届ける術はないと思いこんでおられます。でも、サイレントマジョリティーとしての存在の医師の声が反映できる組織にならなければ日本の医療は変わりません。多くの先生方の声なくして日医は変わりません。今こそ変革の時なのです。多くの一般会員の切実な声が都道府県医師会の代議員に届けられ、代議員に伝えられた地域医療の現場の声が代議員会に反映されて始めて日本医師会は変わることが出来るのだと思います。今、全ての医師が声を上げなければ日本の医療は崩壊してしまうでしょう。我々が担ってきた世界に誇るべき医療を崩壊させてはなりません。

国民の健康と生命を守る、真の医師会の再生・発展にご支援を

圧力団体などという不名誉な誤解と決別し政治に左右されない、国民の信頼、支援を背景に、国民のために活動するそんな日本医師会に改革していきたいと思います。日本医師会は政治に左右されることなく、医の理念に基づき国民の健康と生命を守るための医療制度を堅持すべく国民のために、国民とともに行動をしなければならないと考えます。

全国の医師のご支援を心よりお願い申し上げます。

日本医師会会長選挙立候補にあたって

～森 洋一の基本方針（マニフェスト）

全ては、国民のために、国民の健康と生命を守る医療制度の確保と充実のためという考えで取り組んでまいります。未曾有の不況下で国家財政は破綻状態にあり、医療費の財源の確保も困難な状況です。そのために、医療や介護を十分に受けられない人たちが今後も増加してくるものと考えられます。また、長年にわたって続いた医療費抑制策により医療機関も疲弊しており、危機的状況にあります。

我々は、一昨年より、医療、介護を中心とする社会保障分野は、雇用誘発係数も高く、経済の総波及効果も高いために、社会保障を充実させ雇用を拡大することで内需を拡大し、日本の外需依存度の高い経済構造に変化の一助とすべきであると訴えてきました。また、社会保障を充実させ内需を拡大することで、生活に安心とゆとりが生じ、それによって高齢者に多い生活不安に対する備えとしての資産が消費にまわり、経済循環により変化を与えることが期待されます。さらに人手不足の医療、介護分野の給与水準を引き上げることで、数十万人の雇用が創出され失業率の改善にも大きく寄与すると考えます。我々は、このような形での社会保障充実による国家のあり方の再構築を訴えてまいりました。

基本的には、このような考えを具体化するための取組を日医で行うことで国民に医療・介護を中心とした社会保障制度のあり方についての提言を行い、理解を得ていく。そして、国民の理解と支持のもとに国に社会保障のあるべき姿を訴えていきたいと考えます。

そのためには、多くの課題があります。短期間に全てに取組み、実現することは困難ですが、以下のことを重点的に取り組んでいきたいと考えます。

1) 日医の基本理念の検討

国民の健康と生命を守る医療制度を確立するためには、より多くの医師の参加と提言が欠かせません。そのために、多くの医師が賛同できる理念の構築を最重点とし、新たな理念のもとに日医の活動に取り組みなければなりません。

医療政策会議で検討、策定した基本理念に基づき、日医の普遍的理念としての『社会保障立国論』を構築します。

また、この基本理念にもとづいた各論としてのグランドデザインを、外部、会員の意見を十分に取り入れ多角的な視点でシェイプアップした上で、工程表を作成し実践していきます。

2) 医師、医師会の自律機能の確立

医療への信頼回復のために、医師会に求められているのは自律機能の強化です。

非常に困難な問題ですが、生命倫理懇談会等で検討をすすめます。

3) 医療の質の向上と安全の確保

国民の医療への信頼を醸成するには、生涯教育の推進と質の向上は必須です。現状は、総合医問題もあり、必ずしも多くの会員の理解を得ているとは考えにくい状況です。今後も学術推進会議で検討していきますが、勤務医の意向も反映し、医学教育、臨床研修制度、専門医制度、生涯教育と連携した検討が必要です。

4) 医療安全調査委員会設置に関する検討

政権交代により、医療安全調査委員会の問題は一旦リセットされています。第三次試案の問題点を再確認し、民主党から今後提出されるであろう試案を踏まえ、学会、勤務医の意向を十分取り入れて検討を行います。

5) 地域医療の再生をめざして

——勤務医の過重労働軽減への取り組みの強化——

地域の医療を支えてきた病院の疲弊は深刻であり、医師不足、診療科間の医師偏在などから勤務医の過重労働は極限に達しています。地域医療再生には、医療費増による診療報酬全体の引き上げで地域医療を最前線で担っている病院、診療所の経営基盤の安定を図るとともに、医師養成数の適正な増加による医師不足対策など勤務医の過重労働の軽減が必要です。また、病診、病病関係を強化することで、高度先進医療から急性期、慢性期、在宅まで切れ目のない医療を提供するとともに介護との連携強化にも努めてまいります。

勤務医の過重労働軽減策の強化とともに、今後増加する女性医師が生涯を通じて、そのライフスタイルにあわせた勤務態勢がとれるようなシステム作りと女性医師の就労に積極的に取り組む病院等医療機関への支援策に取り組んでまいります。

6) 日本医師会のあり方検討委員会の設置

いま問われているのは日本医師会が真の医療専門家集団の代表として社会に認知され支持される団体となることです。医師一人一人の意識改革とともに、医療の専門家集団としてのあるべき姿を求め、それにふさわしい活動が行えるような組織へと変えていかなければなりません。日医が変わった、確かに変わったと思われるような取組にしたいと思います。そのために、各ブロックでの議論を踏まえた検討委員会を設置し議論を進めます。また、全都道府県の意見を集約する場も設定し迅速な対応を進めます。

7) 日常的な会員との双方向性の情報伝達システムの構築

社会の変化の速度は顕著です。医師会の対応はそれ以上のものが求められます。ITが活用できない執行部は、社会から、会員から取り残されます。また、多様な意見を集約するためにも、双方向性の情報伝達が欠かせません。そのためには、ITを活用し、迅速かつ的確な対応がとれるような役員会にしてまいります。

8) 日医連との明確な分離

日本医師会と日本医師連盟は明確に峻別しなくてはなりません。新公益法人制度への移行もふまへ、早急に規約改正に取り組めます。

森 洋一 日本医師会会長候補予定者 プロフィール

【氏名】

森 洋一（もり よういち）

【生年月日】

昭和22年6月15日

【医療機関】

医療法人社団 森小児科医院

〒617-0842 京都府長岡京市花山3丁目26

TEL：075-954-9511

【学歴等】

昭和47年9月 京都大学医学部卒業

昭和47年11月28日 医籍登録

【職歴】

昭和47年12月 京都大学医学部附属病院小児科

昭和48年12月 国立京都病院小児科

昭和56年04月 現医院所在地にて開業（現在）

平成01年06月 京都府社会保険診療報酬支払基金審査委員会委員（平成18年01月まで）

平成08年02月 京都府医師会理事（平成13年10月まで）

平成13年11月 京都府医師会副会長（平成18年03月まで）

平成14年02月 近畿地方社会保険医療協議会委員（平成21年10月まで）

平成14年04月 京都府医療審議会委員（現在）

平成18年04月 京都府医師会会長（現在）

平成18年04月 京都府社会保険診療報酬支払基金幹事（現在）

平成20年04月 日本医師会監事（現在）

平成20年04月 日本医師会・医師の団結を目指す委員会（プロジェクト）委員長（現在）

【事務局】

住所：京都市中京区壬生東高田町1-9

TEL/FAX：075-275-1892（※FAXは2月8日開通予定）

メールアドレス：thanks@mori-yoichi.sakura.ne.jp

ホームページ：<http://mori-yoichi.jp/>